

試合時の心構え

ポッチャ競技における礼節などの心構えについては、テニスと同じと考えてよい。多くの観客に競技を観戦してもらいたい。しかし選手がボールの投球モーションに入っている時などは、観客や試合を見ている他の選手などを含めて、静粛に観戦することが望ましい。

1. 設備と器具

コート

コートは12.5m×6m(図1参照)

スローイングボックスは赤コート・青コートの2コートとし、3名の競技者はスローイングボックス内に入り、控え選手はコート端に設置された控え選手待機場所にて待機をすること。

ボール

1セットは、赤ボールが6個、青ボールが6個、白色のジャックボールが1個である。マイボールの使用も認める。(ボールの基準は国際ポッチャ競技規則による重量275g±12g 周長270mm±8mm)

2. チーム編成と競技方法

- ・チーム編成は、3～5人で編成し、障がい者過半数以上で競技すること。ゲームに参加する選手も障がい者過半数以上で編成すること。
- ・試合数は予選リーグが2エンド、決勝トーナメントが4エンドとする。競技時間は約15分以内とし、競技時間内に開始していたエンドは有効とする。1エンドとは、両チームが全てのボールを投げ終わったときとする。
- ・1人の持ち球は2球とし、投球順については規制しない。
- ・介助者が必要な競技者1名につき1名のアシスタントをつけることができるが、アシスタントは競技者に助言、指示等は出来ない。但し、重度の知的障がい者への助言は認めることとする。
- ・選手交代はエンドとエンドの間で行うこと。
- ・選手は競技開始予定時刻までに、指定コートに集合すること。

3. 勝敗

- ・各エンドの得点を加算し、合計点がより多い方のチームを勝ちとする。同点の場合はタイブレイクにより決定する。
- ・タイブレイクは、ジャックボールをクロスに置き、コイントスで先攻・後攻を決定する。投球は1人1投(チームで3投)とする。ジャックボールがマイボールの場合、最初に投球するチームのボールを使用する。
- ・予選リーグにおける順位決定は勝ち数の多い方を上位とし、**勝ち数が同じ場合は総得失点差の多い方を上位とする。**それでも決定しない場合は直接対決の勝者を上位とする。

4. ゲームの展開

- (1) コイントスで先攻・赤ボールと後攻・青ボールを決める。
- (2) 1エンド目は赤ボールの人が白のジャックボールを投げる。ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。ジャックボールがファールの場合は、相手ボールとなり、青ボールの人がジャックボールを投げる。
- (3) ジャックボールのファールとは以下の場合とする。
 - ① Vラインを超えなかった
 - ② コートの外側に投げた
 - ③ ジャックボールを投げる選手が反則をした

